

4-4-3 第4回「自然史王国信州を歩く～災害編～」

【開催日時】 2009年10月18日(日) 9:00～12:00

【場所】 地附山公園(長野市)

【主催】 長野県環境保全研究所

【協力】 NPO法人長野県地すべり防止工事士会(案内協力:内藤 哲 理事長)

【企画案内担当】 長野県環境保全研究所 富樫 均・尾関雅章

【募集対象】 一般(小学校高学年以上)20名

【参加者】 18名(案内内者3名)

【テーマ】 災害と人の暮らし

【目的・ねらい】

自然はやさしく美しい面もあれば、ときには災害をもたらすこともあります。市街地のすぐ脇で大規模な地すべり災害が起こった歴史的な場所で、過去の体験と、地すべりを抑えるためのこれまでの工夫を学び、地すべりと人の暮らしとの関係を一緒に考えます。



図4-4-6 第4回「自然史王国信州を歩く」の案内図
(国土地理院データをカシミール3Dを用いて表示)

★観察ポイント★

- ・地附山公園(上部に展望台あり)と地附山観測センターの現在の様子
- ・「地附山」地すべり災害の体験を知る、伝える
- ・地すべりという自然現象の理解、地質との関連、人との歴史的な関わりを知る
- ・地すべり対策の現状、これからの地すべりとのつきあい方を考える

【参加者の主な感想】

- ・普段体験できないことを身近に感じることができた(他市20代女性)
- ・当時のことを思い出した。その後の対応の積み重ねご苦労様です(市内在住男性)
- ・西山の地質と地すべりの起こり方がわかった(他市、70代男性)
- ・当時のことを忘れないのは大事だと思った(市内在住、10代男性)
- ・(被災箇所と非被災箇所)生えている木の違いがはっきりわかり、面白かった。
- ・良く理解できた(他市、被災当時に長野市に在住50代女性)
- ・とても良い勉強になった、地すべり対策に感心した(市内在住、70代男性、女性)
- ・大変な災害だったということがよくわかった(市内在住、70代男性)

【企画者の反省】

<実施にあたって配慮・工夫した点>

- ・災害の経験をエコツアーの対象としてどう生かすか。現場の条件を確認して場所を選定し、地すべり対策の専門技術者にも案内協力を依頼した
- ・エコツアーとして体験してもらうため、見学と散策と観察にバランスをもたせた。被災の記憶だけで終わるのではなく、地形や植生の観察、長野盆地の展望、山の成り立ちの学習など、楽しめる要素を盛り込んだ
- ・対策工事の様子を見学し、自然と社会との関わりについても重視
- ・地すべり現象のメカニズムの解説と、地すべりが災害をもたらすだけでなく、人の暮らしに役だってきたという歴史的な観点も盛り込んだ
- ・当日参加者の中に、たまたま当時の被災者がおられたので、被災当時のなまなましい体験について、その場で話をしていただいた

<課題>

- ・今回は多くの条件に恵まれた場所での開催であったが、いつでもこのようなツアーができるとは限らない。災害現場を対象にしたエコツアーでは、交通手段、安全性、トイレや学習施設等の有無を事前に確認しておくことは重要。当時の資料や、体験談などがあると、理解が深まる。



講座開催のあいさつ



災害時の状況を聞く(内藤氏より)



被災者の体験を聞く



滑落崖の様子(新旧の植生の違い)



展望台で善光寺平と西山の地質を学ぶ



地すべり対策の集水井戸の中へ



観測センターで災害記録映像を見る



地すべり対策工の構造を見る

図4-4-7 第4回「自然史王国信州を歩く～災害編～」当日の様子